新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

シジュウカラ第91号

§ 平成 30 年度愛鳥講演会　テーマ「渓流の鳥」 §

平成 30 年 11 月 23 日（金・祝）に新潟県立生涯学習推進センター1 階ホールにおいて、愛鳥講演会を開催しました。参加者は 110 名（講師 2 名含む）となりました。多くの皆さまのご参加ありがとうございました。

今年度は「渓流の鳥」をテーマとし、野鳥の中でも人気が高いカワセミの仲間の生態、シノリガモを中心とした渓流の鳥についてお話いただきました。

会場の様子

はじめに、新潟県野鳥愛護会の羽田守氏から「渓流の鳥～シノリガモ繁殖前の行動を中心に～」と題し、渓流付近で観察された様々な野鳥、内倉川（新発田市）におけるシノリガモの繁殖に関わる行動についての観察結果を発表いただきました。前半は、オシドリ、ヤマセミ、アオシギなど渓流ならではの鳥たちの他に、キビタキが偽傷行動を行う珍しい写真も見せていただきました。後半は、冬に海で見ることの多いシノリガモの、渓流での恋の駆け引き模様など、普段目にすることができないとても貴重な報告の数々に会場一同聞き入りました。ストーカーさながらのあぶれ雄の行動には会場から笑いも起こり、素敵なイラストと写真を交えてのお話に、参加者からは「シノリガモの繁殖の様子をたくさん伺い楽しかったです」「あぶれ雄の話など楽しく拝聴しました」との感想が寄せられました。

つづいて、日本野鳥の会新潟県会長の石部久氏から「新潟県に生息するカワセミ科鳥類の生態」と題し、県内に生息するアカショウビン、カワセミ、ヤマセミの生態を中心に、カワセミ科鳥類の形態と特徴、進化について幅広いテーマで講演いただきました。流線型の体の理由、くちばしが大きい理由、足が短い理由や、形態とエサとの関わり、繁殖行動などについて、多様な写真を用いて分かりやすく説明していただきました。とにかく写真が素晴らしく説得力があり、アカショウビン、カワセミ、ヤマセミの生態がよく伝わってきました。途中、実際にそれぞれの鳴き声を流したり、世界のカワセミ科鳥類の分布と進化についてのお話もあり、カワセミ科鳥類の魅力を会場一同存分に堪能することができました。参加者からは「映像が美しく、鳴き声の区別もよく分かりました」「進化の過程がよく分かりました」「お写真がとても素晴らしく短い時間が残念に感じました」などの感想が寄せられました。

羽田氏の発表

石部氏の講演

「親切？　いえいえ、連れ去り（誤認保護）です」

立春を迎えるとはいえ、まだまだ遠い春。あちこちでヒナのさえずりが聞こえるにぎやかな春は、野鳥にとっても待ち遠しい季節です。しかし、春から夏の子育ての真っ最中、野鳥にとっては悲しい事件が、人の親切心から起こることがあります。それは、飛ぶ、あるいはエサをとる練習中のヒナたちが親鳥から引き離されてしまう、いわゆる「誤認保護」です。ヒナにあげるエサをとりに一時的に離れ、戻ってきた親鳥からすれば、「連れ去り」といってもいいかもしれません。

巣立ち直後のヒナは飛ぶことが上手でないため、人が迷子になっていると勘違いし、愛鳥センターに連れてきてしまうことがあります。また、羽ばたこうと巣から落ちた場合、そのまま巣に戻せば親鳥が面倒をみるのですが、人がかわいそうに思って連れてくることもあります。巣が高くて戻せない場合は、カップラーメンなどの容器に入れて巣のそばの木や軒下などに固定したり吊したりすれば、親鳥はちゃんと世話をしにやってきます。

センターに連れてこられたあと、弱って死んでしまうヒナも多いのが実情です。警戒心が強く口を開けないヒナもいます。また、なんとかエサを食べるようになっても、エサの取り方や身の守り方は、人には教えることはできません。

親切心であっても、野鳥にとっては不幸な結果となることがあります。厳しい自然界を生き抜く訓練中のヒナたちを、離れた場所からそっと見守っていただけたらと思います。

「白鳥にとってどっちが幸せ？」

もうすぐ白鳥が故郷に帰る季節です。

白鳥がひととおり帰ったあと、川や湖沼に1羽から数羽残っている白鳥について、センターに保護して欲しいという問合せが寄せられることがあります。

翼などに何らかのケガをしていることもあり、日本からシベリアまで、3～4,000kmもの長距離飛行ができない白鳥が残っています。

「かわいそう」という思いから連絡されるようですが、実は白鳥はとても臆病。人を怖がってエサを食べなかったり、世話をする箱の中で暴れて翼から出血したり。捕獲のために無理に追いかけて弱ってしまい、収容後の翌日に死んでしまった白鳥もいます。

また、飼育ケージに移っても白鳥に試練は続きます。のんびりしているように見えますが、広い湖沼などで過ごす彼らには、ケージは狭くて他の白鳥との距離も近く、人が近づくたびにストレスを感じています。羽をむしられたり、つつかれて衰弱する白鳥もいます。

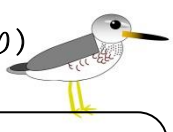
さらに、自然界では水に浮かぶことで足に負荷がかからないのですが、ケージではほとんど起立して過ごします。そのため、「趾瘤症（しりゅうしょう）」といって足の裏にコブができ、痛くて立てなくなることもあります。立てないと体温調節がうまくできない、胸部圧迫により呼吸が苦しいなどの理由から徐々に弱り、最後は死んでしまいます。

多少ケガをしていても、自然界で川や湖沼の水底の草、堆積物など本来の餌を食べ、ストレスなく過ごしている方が白鳥にとっては幸せかもしれません。

自力で問題なく生きている場合、あるいは捕獲を試みても逃げる場合、愛鳥センターでは「そのまま様子を見守ってください」と皆様にお願いしています。ご協力をよろしくお願いします。

§８～11月の探鳥会・観察会§

8/26（日）シギ・チドリ観察会　9:00～11:00　（曇り）
場所：網代浜　参加者:25名　観察種：21種【①】



浜ではウミネコの群れとキアシシギ 1 羽の姿が見られ、歩くうちにチュウシャクシギ 2 羽が何かを食べている様子や、波打ち際にいるトウネンの群れの中にキリアイも見られました。遠くの波消しブロックの上には、お腹が少し赤いサルハマシギとハマシギも観察できました。

トウネンの群れが見られました

いろいろな虫の音が聞こえてきました

9/1（日）マツムシの声を楽しむ会　18:00～20:00（曇り一時雨）
場所：紫雲寺記念公園　参加者:13名　観察種：15種
（紫雲寺記念公園プロモーションパートナー・胎内昆虫の家共催）

センターの駐車場付近では、早速コオロギの仲間やカンタンの声が聞こえ、お馴染みスズムシの声も聞こえてきました。草地に向かうと、本命のマツムシの声をたくさん聞くことができ、道路沿いではキリギリスの姿も見ることができました。

9/23（日）タカの渡りを見る会　9:30～11:30　（晴れ）
場所：大天城公園　参加者:45名　観察種：25種【②】

絶好の観察日和となり、公園の駐車場で講師よりタカの渡りについてお話を聞いたあと、早速みんなで空を見上げました。サシバやハチクマがポツポツと北西から南東方向へ渡っていき、なかには小さめのツミも数羽。いくつかヒヨドリの群れも渡っていきました。合間にはアカゲラやアオゲラ、ヤマガラ、コサメビタキなどが確認でき、最後はサシバとノスリが小競り合いをしながら移動していく姿を見て締めくくりとなりました。

みんなで空を見上げます

10/21（日）秋の渡りを見る会　9:00～11:00　（晴れ）
場所：福島潟　参加者:41名　観察種：37種【③】

潟にはカモがたくさん

上空をコハクチョウやカモの群れが飛び、潟の中ではたくさんのコガモが出迎えてくれました。日光浴中のカワウやアカゲラなどを見ながら進んで行くと、木に止まるオオタカ若鳥を発見。続いてヨシ原の上を飛ぶチュウヒやチョウゲンボウも見ることができ、周りではモズがよく鳴いていました。

10/28（日）紫雲寺記念公園探鳥会　9:00～10:30（曇り時々雨）
場所：紫雲寺記念公園　参加者:15名
観察種：14種【④】（紫雲寺記念公園プロモーションパートナー共催）

周辺で見られる野鳥の予習をしたあと、探鳥路に出掛けました。雨が降ったりやんだりのお天気でしたが、スズメやハシブトガラスは元気よく活動していました。ウグイスやアオゲラの声を聞きながら進むと、木のてっぺんに止まるカワラヒワやツグミ、ヒヨドリなどが見られました。

雨の中の観察会となりました

11/11（日）冬の初心者探鳥会　8:00～9:30　（曇り）
場所：瓢湖　参加者:20名　観察種：21種【⑤】

湖面には、コハクチョウや色とりどりのカモたちがたくさん！オナガガモやホシハジロ、キンクロハジロの♂♀、それぞれの若鳥が入り混じり、なかにはちょっと珍しいアメリカヒドリもいました。奥の観察舎へ行く途中では、しきりに逆立ち潜りをしてレンコンを食べるオオハクチョウや、モズなどを見ることができました。

探鳥会の確認鳥種

No.	種名	①	②	③	④	⑤
1	ヒシクイ			●		
2	コハクチョウ			●		●
3	オオハクチョウ					●
4	ヒドリガモ			●		●
5	アメリカヒドリ					●
6	マガモ			●		●
7	カルガモ			●		●
8	ハシビロガモ			●		●
9	オナガガモ			●		●
10	コガモ			●		●
11	ホシハジロ			●		●
12	キンクロハジロ					●
13	カイツブリ			●		
14	カンムリカイツブリ			●		
15	キジバト	●	●	●		
16	カワウ			●		●
17	ウミウ	●				
18	アオサギ	●	●	●		
19	ダイサギ			●		
20	バン			●		
21	オオバン			●		●
22	ツツドリ			●		
23	シロチドリ	●				
24	チュウウシャクシギ	●				

No.	種名	①	②	③	④	⑤
25	キアシシギ	●				
26	トウネン	●				
27	サルハマシギ	●				
28	ハマシギ	●				
29	キリアイ	●				
30	ウミネコ	●				
31	オオセグロカモメ	●				
32	ミサゴ	●	●	●		
33	ハチクマ		●			
34	トビ	●	●	●		
35	チュウヒ			●		
36	ツミ		●			
37	ハイタカ		●			
38	オオタカ			●		
39	サシバ		●			
40	ノスリ		●		●	
41	カワセミ			●		
42	コゲラ		●		●	
43	アカゲラ		●	●		
44	アオゲラ		●		●	
45	チョウゲンボウ			●		
46	モズ			●		●
47	カケス		●			
48	ハシボソガラス			●	●	●

No.	種名	①	②	③	④	⑤
49	ハシブトガラス	●	●		●	●
50	ヤマガラ		●			
51	シジュウカラ		●	●	●	
52	ヒバリ			●		
53	ツバメ	●				
54	ヒヨドリ	●	●	●	●	●
55	ウグイス			●	●	
56	メジロ		●		●	
57	ムクドリ			●		●
58	ツグミ				●	
59	ジョウビタキ			●		
60	エゾビタキ		●			
61	コサメビタキ		●			
62	スズメ	●	●	●	●	●
63	キセキレイ		●			
64	ハクセキレイ	●	●			●
65	セグロセキレイ		●			●
66	カワラヒワ	●	●	●	●	
67	ホオジロ	●			●	
68	カシラダカ				●	
69	アオジ			●		
70	オオジュリン			●		
	計	21	25	37	14	21

§傷病鳥獣の収容状況§

平成30年度　8月～11月の傷病鳥獣収容結果

収容NO.	種類	7月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	11月末収容数
	（鳥類）						
1	キジ	1	2			3	0
	マガン	1					1
2	コハクチョウ	10	8	3		7	8
3	オオハクチョウ		1			1	0
4	ヒドリガモ		1			1	0
5	マガモ	1	1	1			1
6	カルガモ	1	1	1			1
7	シマアジ		1			1	0
8	コガモ		2	1		1	0
9	ハジロカイツブリ		1			1	0
10	キジバト	3	5	4		2	2
11	アオバト	2	8	3		4	3
12	オオミズナギドリ		8	3		4	1
13	ゴイサギ		1			1	0
14	アオサギ		2			2	0
15	ダイサギ		4	1		3	0
16	チュウサギ		1			1	0
17	バン		1			1	0
18	ホトトギス		2	2			0
19	ヨタカ		3			2	1
20	ヤマシギ		3			3	0
21	ウミネコ	1	5	1		2	3
	オオセグロカモメ	1				1	0
22	トビ	4	3			2	5
23	オオタカ		2	1		1	0
24	サシバ	1	1	2			0
25	ノスリ	2	1	2			1
	クマタカ	1					1
26	オオコノハズク		2	2			0
27	コノハズク		2			2	0
28	フクロウ	3	4	1	2	2	2
	アオバズク	3		3			0

収容NO.	種類	7月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	11月末収容数
29	カワセミ		4	1		3	0
30	チョウゲンボウ	2	1	1		2	0
31	ハヤブサ	1	1			1	1
32	モズ		1	1			0
33	オナガ		1			1	0
	ハシボソガラス	2					2
34	キクイタダキ		2			2	0
35	シジュウカラ		2			2	0
36	ツバメ	3	13	3		13	0
37	ヒヨドリ		1			1	0
38	ウグイス		11	5		6	0
39	ヤブサメ		2	1		1	0
40	メボソムシクイ		7	2		5	0
41	シマセンニュウ		2			2	0
	マミジロ	1					1
42	クロツグミ		1				1
43	シロハラ		1				1
44	ツグミ		1			1	0
45	ルリビタキ		1			1	0
46	イソヒヨドリ		1			1	0
	キビタキ	1				1	0
47	スズメ		9	1		8	0
48	ハクセキレイ		5	5			0
49	カワラヒワ		2			2	0
50	ドバト		6	2		3	1
51	レースバト		2	1	1		0
52	不明		4	2		2	0
	小計	45	157	56	3	106	37
	（獣類）						
1	タヌキ		2			2	0
	小計	0	2	0	0	2	0
	合計	45	159	56	3	108	37

平成30年8月1日～11月30日までの収容数は、鳥類52種157羽、獣類1種2頭で、昨年度の同時期（鳥類164羽 獣類2頭）と比べ鳥類は減少した。

＜特記事項＞

・ シマアジ

平成30年10月7日、新潟市中央区で保護され、同日センターに収容された。
腹膜裂傷、右中手骨と右脚を骨折しており、縫合、テーピング固定処置等を施したが、同日夕方に死亡した。
収容時の体重：400g
この個体は、平成21年に次いで2例目。

＜その他＞

・ ヒドリガモ　7例目（平成29年収容以来）
・ イソヒヨドリ　8例目（平成22年収容以来）

§ 平成 31 年度愛鳥週間用ポスター原画募集新潟県大会 §

平成 31 年度愛鳥週間用ポスター原画募集新潟県大会の審査会を平成 30 年９月 12 日に愛鳥センターで行いました。このポスターの原画募集は、製作過程を通して野鳥愛護思想の高揚を図る目的で、県内の愛鳥モデル校より毎年募集しています。

今年度は、小学校から 287 点（12 校）、中学校は 14 点（1 校）応募がありました。

今年度は全体的に鳥への思いや愛情を感じる作品が多く、例年と比べ鳥の種類も増えて、構図の取り方、色彩も上手くなっています。

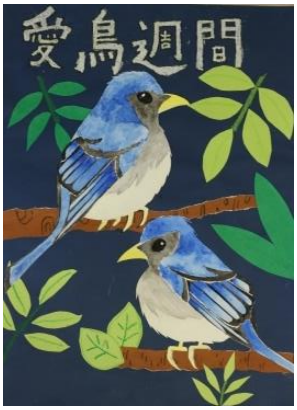
特に、小学校低学年の作品は、よく観察して描がいた作品が多くありました。

小学生の部で金賞を受賞した南魚沼市立第二上田小学校５年貝瀬蓮さんは、２羽の鳥の大きさを変えることで遠近感が表れ、親鳥が世話をしている様子が表現されていると講評されました。

中学生の部は、残念ながら金賞、銀賞は、該当者なしになりました。銅賞を受賞した内山慧泉さんは自然の象徴であるフクロウを題材に、自然の大切さが上手く表現されていると講評されました。

金賞・銀賞の作品は、（公財）日本鳥類保護連盟が主催する全国大会へ応募しました。

小学校の部　金賞
貝瀬　蓮さん
（第二上田小５年）



小学校の部　銀賞
松縄　ひなたさん
（明治小６年）

〈審査結果〉

賞	小学校の部	中学校の部
金賞	貝瀬　蓮　（第二上田小５年）	該当者なし
銀賞	山田　陽愛（第二上田小５年） 松縄　ひなた　（明治小６年）	該当者なし
銅賞	佐久間　結依　（藤塚小３年） 平松　歩　（分水北小５年） 大瀧　希実　（明治小６年）	内山　慧泉　（中郷中１年）

※愛鳥センターホームページで受賞作品を見ることができます。

§ 全国大会結果報告 §

10 月 22 日に「平成 31 年愛鳥週間用ポスター原画コンクール」審査会が東京都で開催され、応募総数 55,659 点の中から、小学校の部で県大会銀賞の南魚沼市立第二上田小５年山田陽愛さんが「入選」されました。

全国大会「入賞」（小学校の部）
山田　陽愛さん（第二上田小５年）

§“着任のご挨拶”　職員　本田　協子　§

みなさま、はじめまして。昨年 10 月から愛鳥センターにて野生傷病鳥獣の救護など担当させていただいている、獣医師の本田協子です。

以前は、ずっと小動物(主に犬や猫)を診る動物病院で仕事をしてきました。動物病院は診察だけではなく、動物と飼い主さんの暮らしがお互いにより良いものになるようにアドバイスなども沢山します。私はそのような双方の気持ちを取り持つことができたときが、一番うれしい瞬間でした。センターに収容される鳥たちは、ペットではなく牛や豚などの産業動物とも違います。その違いに毎日向き合っているところです。

同時に、鳥たちのバリエーション豊かな生態や姿に対して、純粋に興味が湧いてきています。少しずつではありますが種類や見分け方を覚えたりしています。また、彼らの人間に対する反応も、種類による違いや個体による違いがあります。このような観察で得られる知識も、今後の救護活動に役立てられるといいなと思います。

また、県内にいると忘れがちですが新潟県は様々な鳥が見られる場所も多く、恵まれた環境です。他県にも後世にも、恥ずかしくない環境を残していく必要があると思います。

まだまだ思い至らないところが多々あるとは思いますが、とにかく日々「どの選択肢が最良か」に向かい合っていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

治療する本田職員

◆　８～11 月の利用者数　◆

(人)

月	8 月	9 月	10 月	11 月	年度累計	開館累計
来館者数	848	1079	845	656	8, 853	619, 018

館内設置のトキ募金箱の報告

平成 30 年 8 月～平成 30 年 11 月 **1, 183 円**

累計**２９１，５３１円**

みなさまの暖かい善意に深く感謝いたします。

今後ともご協力をお願いいたします。

新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

開館時間：午前 9 時～午後 4 時

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）

〒957-0231 新発田市藤塚浜海老池

Tel 0254-41-4500／Fax 0254-41-4501

HP：http://www.pref.niigata.lg.jp/aicho/

E-mail：ngt035310@pref.niigata.lg.jp

３月までの行事予定

探鳥会《参加費、申込み不要です。現地集合･解散となります。双眼鏡や図鑑の貸出しがあります。》

・海鳥を見る会（聖籠海のにぎわい館駐車場集合）

2/10(日)　9：00～11：00

・ハクチョウを見送る会（お幕場大池駐車場集合）

3/3（日）　9:00～11:00

講演会（申込みが必要です）

・新潟県野鳥保護の集い（瓢湖）

2/17（日）　10:00～15:00

内容：午前：探鳥会(瓢湖)

午後：野鳥保護の集い(阿賀野市福祉会館)

講演会、各地の冬鳥情報など

申込み・問合せ：愛鳥センター 0254-41-4500

申込締切：2 月 10 日（日）まで

参加費：無料　/　定員：100 名（先着）

対象：小学校高学年以上

・愛鳥学習会（県立生涯学習推進センター）

3/17（日）　13:30～15:15

内容：野鳥観察を始めたばかりの方を対象に野鳥の基礎知識が学べる初心者向けの学習会を開催します。

演題：「公園で見られる鳥～渡り鳥の科学」

講師：日本野鳥の会新潟県会長

石部久　氏

発表：「鳥屋野潟の環境と鳥」

講師：県立鳥屋野潟公園指定管理者

(株)アール・ケー・イー所長

浅野　涼太　氏

申込み・問合せ：愛鳥センター 0254-41-4500

申込締切：3 月 10 日（日）まで

参加費：無料　/　定員 150 名（先着）